

特別企画: 第 14 回大阪府下メインバンク調査 (2022 年)

## メガバンク離れが加速 ～脱コロナで問われるメインバンクカ～

### はじめに

超低金利による貸出金利の低下など金融機関は厳しい経営環境が続くなか、地方銀行を中心に再編の動きが活発化している。10 月には愛知銀行と中京銀行による持ち株会社「あいちフィナンシャルグループ (FG)」が発足。11 月には、ふくおか FG と福岡中央銀行が経営統合に向け基本合意に達し、同グループ最大の経営基盤となる福岡県下で勢力を拡大させた。

コロナ禍で疲弊した中小企業への支援が、資金繰りから企業再建へと移るなか、経営再建や事業承継、取引先の新規開拓など、経営の様々な場面で地域金融機関に求められる役割が増している。金融機関によってはゼロゼロ融資などで、積極的に地域密着型の経営を選択する傾向もあるなか、金利以外の魅力度を高めた金融機関が様々な課題を持つ企業から幅広い支持を得る形となり、今後メインバンクシェアに変化が訪れる可能性がある。

帝国データバンク大阪支社では、2022 年 10 月末時点の企業概要ファイル「COSMOS2」に収録されている大阪府下企業 (105,962 社) がメインバンクと認識している金融機関について抽出し、集計した。なお、調査対象は全業種全法人で、個人経営も含む。同調査は 2021 年 12 月に続き 14 回目。

※ 本調査は「COSMOS2」に収録されている企業のデータであるため、各金融機関がメインとして取引している実数とは異なる。また、一企業に複数のメインがあるケースでは、企業が最上位として認識している金融機関を集計した

### 調査結果 (要旨)

1. 大阪府下メインバンクは「三井住友銀行」が 3 年連続首位、「三菱 UFJ 銀行」が 124 社差で 2 位。メガバンクのシェアを地方銀行、信用金庫が奪取する傾向はここ数年続いており、メガバンクから地域金融機関へのシフトは今回も鮮明に表れた
2. 地域別では「三菱 UFJ 銀行」が 2 地区、「三井住友銀行」が 1 地区でトップ。大阪北地区は 6 年連続で「北おおさか信金」が首位。大阪南地区では上位が社数を伸ばすなど激戦区となっている
3. 業種別では、「三井住友銀行」が 4 業種でトップ、「三菱 UFJ 銀行」は 3 業種でトップとなり、すべての業種でこの 2 行が上位を独占。一方で「建設業」では「関西みらい銀行」が業種別で初の 2 位となった

## 1. メガがトップ2は変わらないものの、地銀・信金との差は縮小

大阪府下のメインバンク企業数は、「三井住友銀行」が18,006社（前年比222社減、構成比17.0%、同比0.3ポイント減）で社数、シェアは下げたものの、3年連続首位。2位は「三菱UFJ銀行」の17,882社（同161社減、同0.3ポイント減）。「みずほ銀行」は4,515社（同112社減、同0.1ポイント減）で8位。メガバンクは3行ともに社数、シェアを下げた。

3位の「りそな銀行」は12,605社（同166社増、同0.1ポイント増）。同グループの「関西みらい銀行」は10,705社（同74社増、同横ばい）で4位。6位の「池田泉州銀行」は225社増となった。10位の「紀陽銀行」も70社増でシェアを伸ばした。

信用金庫では、「大阪シティ信金」が109社増、「大阪信金」は200社増、「北おおさか信金」も84社増となり、地域を支える地銀、信金が社数を伸ばした。上位10行のシェアは83.5%となり、前年比0.3ポイント減で分散化が進んだ

順位	金融機関名	社数	構成比 (%)
1	三井住友	18,006	17.0%
2	三菱UFJ	17,882	16.9%
3	りそな	12,605	11.9%
4	関西みらい	10,705	10.1%
5	大阪シティ信金	6,911	6.5%
6	池田泉州	5,959	5.6%
7	大阪信金	5,234	4.9%
8	みずほ	4,515	4.3%
9	北おおさか信金	4,080	3.9%
10	紀陽	2,600	2.5%
11	尼崎信金	2,101	2.0%
12	京都	1,111	1.0%
13	永和信金	1,048	1.0%
14	枚方信金	768	0.7%
15	大阪商工信金	732	0.7%
16	商工中金	683	0.6%
17	南都	663	0.6%
18	京都中央信金	609	0.6%
19	徳島大正	463	0.4%
20	大阪厚生信金	427	0.4%
21	阿波	382	0.4%
22	近畿産業信組	305	0.3%
23	ゆうちょ	290	0.3%
24	みなと	265	0.3%
25	のぞみ信組	253	0.2%
26	北陸	226	0.2%
27	成協信組	177	0.2%
28	京都中央信金	158	0.1%
29	三十三	150	0.1%
30	香川	141	0.1%
31	大同信組	122	0.1%
32	百十四	121	0.1%
33	滋賀	106	0.1%
34	大阪協栄信組	92	0.1%
35	楽天	89	0.1%
36	伊予	87	0.1%
37	四国	78	0.1%
38	PayPay	77	0.1%

順位	金融機関名	社数	構成比 (%)
39	ミレ信組	69	0.1%
40	きのくに信金	62	0.1%
41	但馬	52	-
	三井住友信託	52	-
43	愛媛	50	-
44	大阪中河内農協	50	-
45	北国	43	-
46	住信SBIネット	42	-
47	日本政策金融公庫	40	-
48	山陰合同	36	-
49	中国	35	-
	名古屋	35	-
51	大阪南農協	34	-
52	いずみの農協	33	-
53	大阪府医師信組	27	-
	大阪泉州農協	27	-
55	福井	26	-
56	北河内農協	25	-
57	大阪市農協	23	-
58	三菱UFJ信託	21	-
	播州信金	21	-
60	広島	20	-
	近畿労金	20	-
62	十六	19	-
63	高知	18	-
64	大垣共立	17	-
	GMOあおぞらネット	16	-
65	SBJ	16	-
	グリーン大阪農協	16	-
68	十八親和	15	-
	大阪北部農協	15	-
70	大阪府信連	14	-
71	福岡	13	-
	農林中金	13	-
73	西日本シティ	12	-
	トマト	12	-
75	静岡	11	-
76	山口	10	-

順位	金融機関名	社数	構成比 (%)
76	福邦	10	-
	茨木市農協	10	-
79	百五	9	-
	日新信金	9	-
	きらぼし	8	-
	横浜	8	-
	大分	8	-
	鹿児島	8	-
81	東京スター	8	-
	奈良信金	8	-
	大和信金	8	-
	神戸信金	8	-
	全信組連	8	-
	大阪東部農協	8	-
	新生	7	-
91	印度	7	-
	兆豊国際商業	7	-
	奈良中央信金	7	-
	大阪貯蓄信組	7	-
	中央信組	7	-
	鳥取	6	-
	肥後	6	-
	あおぞら	6	-
	ハナ	6	-
97	愛知	6	-
	中京	6	-
	信金中央金庫	6	-
	兵庫ひまわり信組	6	-
	高槻市農協	6	-
	堺市農協	6	-
107	武蔵野	5	-
	佐賀	5	-
	琉球	5	-
	みずほ信託	5	-
	姫路信金	5	-
	兵庫信金	5	-
-	未詳	4271	4.0%

## 参考資料

## 前回メインバンク調査（2021年12月発表）

順位	金融機関名	社数	構成比 (%)	順位	金融機関名	社数	構成比 (%)	順位	金融機関名	社数	構成比 (%)
1	三井住友	18,228	17.3%	39	ミレ信組	63	0.1%		百五	10	-
2	三菱UFJ	18,043	17.2%	40	きのくに信金	59	0.1%	77	福邦	10	-
3	りそな	12,439	11.8%	41	但馬	53	0.1%		中京	10	-
4	関西みらい	10,631	10.1%	42	三井住友信託	51	-		茨木市農協	10	-
5	大阪シティ信金	6,802	6.5%		大阪中河内農協	51	-		大阪東部農協	10	-
6	池田泉州	5,734	5.5%	44	愛媛	48	-	82	日新信金	9	-
7	大阪信金	5,034	4.8%	45	北国	43	-		高槻市農協	9	-
8	みずほ	4,627	4.4%	46	日本政策金融公庫	40	-	84	大分	8	-
9	北おおさか信金	3,996	3.8%	47	中国	38	-		鹿児島	8	-
10	紀陽	2,530	2.4%	48	大阪南農協	35	-		東京スター	8	-
11	尼崎信金	2,041	1.9%	49	山陰合同	34	-		全信組連	8	-
12	京都	1,061	1.0%	50	いずみの農協	32	-	88	鳥取	7	-
13	永和信金	1,014	1.0%	51	名古屋	31	-		GMOあおぞらネット	7	-
14	枚方信金	743	0.7%	52	福井	29	-		印度	7	-
15	大阪商工信金	695	0.7%	53	大阪泉州農協	26	-		兆豊国際商業	7	-
16	商工中金	682	0.6%	54	大阪府医師信組	25	-		大和信金	7	-
17	南都	638	0.6%	55	住信SBIネット	24	-		中央信組	7	-
18	京都信金	560	0.5%		北河内農協	24	-		堺市農協	7	-
19	徳島大正	450	0.4%	57	大阪市農協	22	-	95	きらぼし	6	-
20	大阪厚生信金	423	0.4%	58	三菱UFJ信託	21	-		宮崎	6	-
21	阿波	383	0.4%		広島	20	-		あおぞら	6	-
22	ゆうちょ	289	0.3%	59	播州信金	20	-		ハナ	6	-
23	近畿産業信組	286	0.3%		近畿労金	20	-		富山第一	6	-
24	のぞみ信組	255	0.2%	62	十六	19	-		愛知	6	-
25	みなと	251	0.2%		高知	19	-		信金中央金庫	6	-
26	北陸	237	0.2%	64	大垣共立	17	-		奈良信金	6	-
27	成協信組	177	0.2%	65	十八親和	16	-		奈良中央信金	6	-
28	三十三	153	0.1%		SBJ	16	-		神戸信金	6	-
29	香川	140	0.1%		静岡	14	-		大阪貯蓄信組	6	-
30	京都中央信金	139	0.1%	67	トマト	14	-	106	肥後	5	-
31	百十四	124	0.1%		大阪府信連	14	-		琉球	5	-
32	大同信組	114	0.1%		大阪北部農協	14	-		新生	5	-
33	滋賀	109	0.1%		グリーン大阪農協	14	-		姫路信金	5	-
34	大阪協栄信組	83	0.1%	72	西日本シティ	13	-		兵庫信金	5	-
35	伊予	81	0.1%		農林中金	13	-		西兵庫信金	5	-
36	四国	79	0.1%		横浜	11	-		兵庫ひまわり信組	5	-
37	楽天	78	0.1%	74	山口	11	-	-	未詳	4,312	4.1%
38	PayPay	65	0.1%		福岡	11	-				

## 2. 地域別ランキング

地域別では、大阪府下を①大阪市内②大阪北③大阪東④大阪南の4ブロックに分別した。（注1）

### ① 大阪市内地区

最も社数が多い大阪市内地区に本社を置く企業のメインバンクを見てみると、上位10行のうち、メガバンクは順位を維持したものの社数、シェアともに下げた。他7行はいずれも社数を伸ばす結果となった。順位こそ変わらないものの、3位の「りそな銀行」は81社増、5位の「大阪シティ信金」は64社増となり、シェアを伸ばした。

11位以降の10行のうち7行で社数を伸ばし、メガバンクの落とした社数が分散化されていることが分かる。昨年、ランク外から20位にランクインした「京都銀行」は、今年は18位へ上昇した。

順位	前回順位	金融機関名	社数	構成比 (%)
1	(1)	三菱UFJ	10,552	20.4%
2	(2)	三井住友	10,178	19.6%
3	(3)	りそな	6,903	13.3%
4	(4)	関西みらい	4,794	9.3%
5	(5)	大阪シティ信金	3,369	6.5%
6	(6)	みずほ	2,918	5.6%
7	(7)	大阪信金	2,158	4.2%
8	(8)	池田泉州	1,444	2.8%
9	(9)	北おおさか信金	1,318	2.5%
10	(10)	尼崎信金	1,028	2.0%
11	(11)	永和信金	683	1.3%
12	(12)	大阪商工信金	402	0.8%
13	(13)	紀陽	390	0.8%
14	(14)	商工中金	316	0.6%
15	(15)	大阪厚生信金	244	0.5%
16	(16)	阿波	225	0.4%
17	(17)	近畿産業信組	216	0.4%
18	(18)	みなと	196	0.4%
	(20)	京都	196	0.4%
20	(19)	徳島大正	191	0.4%

### ② 大阪北地区

大阪北地区では、1位は「北おおさか信金」で社数、シェアともに伸ばし、6年連続首位。この地域では年々2位との差は大きくなり、確固たる地位を確立している。一方で、2位「三井住友銀行」、3位「三菱UFJ銀行」は社数、シェアともに落とした。

池田市に本店を構えていた池田銀行の流れをくむ「池田泉州銀行」は35社増やし、シェアも0.2ポイント伸ばした。

「京都銀行」は20社増、京都信金は17社増、京都中央信金は10社増などの京都勢は社数を伸ばした。「滋賀銀行」「阿波銀行」「徳島大正銀行」は大阪に隣接しない県に本店を持ちながらも、上位20社に入っている。

順位	前回順位	金融機関名	社数	構成比 (%)
1	(1)	北おおさか信金	2,310	17.7%
2	(2)	三井住友	1,950	14.9%
3	(3)	三菱UFJ	1,798	13.7%
4	(4)	りそな	1,354	10.4%
5	(5)	池田泉州	1,346	10.3%
6	(6)	関西みらい	1,199	9.2%
7	(7)	尼崎信金	494	3.8%
8	(8)	みずほ	442	3.4%
9	(9)	京都	273	2.1%
10	(10)	大阪信金	213	1.6%
11	(11)	大阪シティ信金	149	1.1%
12	(12)	京都信金	131	1.0%
13	(13)	京都中央信金	73	0.6%
14	(14)	商工中金	56	0.4%
15	(15)	ゆうちょ	49	0.4%
16	(16)	みなと	44	0.3%
17	(17)	のぞみ信組	29	0.2%
18	(18)	滋賀	28	0.2%
19	(19)	阿波	22	0.2%
20	(20)	徳島大正	20	0.2%
20	-	大阪厚生信金	20	0.2%

### ③大阪東地区

大阪市内地区に続き企業数が多く、金融激戦区である大阪東地区では、「三菱UFJ銀行」が首位を堅持したが、前回初めて2位となった「関西みらい銀行」との差は縮まった。3位「三井住友銀行」と4位「大阪シティ信金」との差もわずか15社。

5位の「りそな銀行」が2,000社を超える一方で、6位の「みずほ銀行」は800社を割り込んだ。「枚方信金」「大阪信金」「池田泉州銀行」の地元金融機関が社数を伸ばした。また、前回12位の「京都信金」が11位に浮上。

「大阪商工信金」が14社増、「尼崎信金」が22社増と11位以下でも2桁増となるなど、信金を中心に積極的な展開を見せており、メガから地域金融機関への分散化が進んでいる。

順位	前回順位	金融機関名	社数	構成比(%)
1	(1)	三菱UFJ	3,030	14.3%
2	(2)	関西みらい	2,919	13.8%
3	(3)	三井住友	2,854	13.5%
4	(4)	大阪シティ信金	2,839	13.4%
5	(5)	りそな	2,008	9.5%
6	(6)	みずほ	798	3.8%
7	(7)	枚方信金	729	3.4%
8	(8)	大阪信金	675	3.2%
9	(9)	京都	597	2.8%
10	(10)	池田泉州	466	2.2%
11	(12)	京都信金	446	2.1%
12	(11)	北おおさか信金	434	2.0%
13	(13)	永和信金	294	1.4%
14	(14)	南都	269	1.3%
15	(15)	大阪商工信金	268	1.3%
16	(16)	尼崎信金	240	1.1%
17	(17)	紀陽	192	0.9%
18	(18)	商工中金	139	0.7%
19	(19)	徳島大正	138	0.7%
20	(20)	大阪厚生信金	107	0.5%

### ④大阪南地区

唯一、金融機関の本店がない大阪南地区では、1位の「三井住友銀行」が3,024社で前回から38社増となった。2位の「池田泉州銀行」は116社の大幅増加で、元泉州銀行の地盤での強さが際立っている。「三菱UFJ銀行」は2社増で3位を堅持したが、4位「りそな銀行」との差は縮まっている。5位「大阪信金」は119社の大幅増加、「紀陽銀行」は2,000社台に乗せた。

上位10行のうち、「みずほ銀行」を除く9行が社数を伸ばすなど、他地域のようなメガバンクのシェアを地域金融機関が獲得する図式とは異なる動きを見せている。近隣県からの参入による競争激化も続いている。

順位	前回順位	金融機関名	社数	構成比(%)
1	(1)	三井住友	3,024	15.2%
2	(2)	池田泉州	2,703	13.6%
3	(3)	三菱UFJ	2,502	12.6%
4	(4)	りそな	2,340	11.8%
5	(5)	大阪信金	2,188	11.0%
6	(6)	紀陽	2,005	10.1%
7	(7)	関西みらい	1,793	9.0%
8	(8)	大阪シティ信金	554	2.8%
9	(9)	みずほ	357	1.8%
10	(10)	尼崎信金	339	1.7%
11	(11)	南都	228	1.1%
12	(12)	商工中金	172	0.9%
13	(13)	成協信組	114	0.6%
	(14)	徳島大正	114	0.6%
15	(15)	阿波	73	0.4%
16	(17)	永和信金	66	0.3%
17	(16)	三十三	58	0.3%
18	(18)	きのくに信金	57	0.3%
	(18)	ゆうちょ	57	0.3%
20	(20)	大阪厚生信金	56	0.3%
	(20)	大阪商工信金	56	0.3%

### 3. 業種別ランキング

業種別のTOP10のランキングを見ると、10位が入れ替わった「建設業」以外は、前回調査から各業種の上位10行の顔ぶれに変動はなかった。「三井住友銀行」が「建設業」「小売業」「不動産業」「運輸・通信業」の4業種で、「三菱UFJ銀行」が「製造業」「卸売業」「サービス業」の3業種でトップとなった。前は全業種をメガバンク2行で独占していたが、今回は調査開始以来、初めて「関西みらい銀行」が建設業で2位にランクインした。

3位は「りそな銀行」が4業種、「三菱UFJ銀行」、「関西みらい銀行」が、「大阪シティ信金」が1業種で分け合う形となった。

「製造業」のように順位が変わらない業種がある一方で、「建設業」や「不動産業」のように順位の変動が多い業種もある。各金融機関によって注力する業種か否かが分かれる形となった。

特に「池田泉州銀行」、「大阪シティ信金」はともに「建設業」「不動産業」の2業種で順位を上げており、地元地銀としての存在感を見せた。一方で「みずほ銀行」は2業種で順位を落とす結果となった。

#### 【建設業】

順位	前回順位	金融機関名	社数	構成比 (%)
1	(1)	三井住友	4,358	15.0%
2	(3)	関西みらい	4,185	14.4%
3	(2)	三菱UFJ	4,181	14.4%
4	(4)	りそな	3,302	11.4%
5	(6)	池田泉州	2,070	7.1%
6	(5)	大阪シティ信金	2,051	7.1%
7	(7)	大阪信金	1,986	6.8%
8	(8)	北おおさか信金	1,926	6.6%
9	(9)	紀陽	827	2.8%
10	-	尼崎信金	725	2.5%

#### 【製造業】

順位	前回順位	金融機関名	社数	構成比 (%)
1	(1)	三菱UFJ	2,334	16.0%
2	(2)	三井住友	2,311	15.9%
3	(3)	大阪シティ信金	1,882	12.9%
4	(4)	りそな	1,485	10.2%
5	(5)	関西みらい	1,178	8.1%
6	(6)	大阪信金	761	5.2%
7	(7)	みずほ	721	4.9%
8	(8)	池田泉州	718	4.9%
9	(9)	北おおさか信金	495	3.4%
10	(10)	紀陽	416	2.9%

#### 【卸売業】

順位	前回順位	金融機関名	社数	構成比 (%)
1	(1)	三菱UFJ	3,782	21.3%
2	(2)	三井住友	3,411	19.2%
3	(3)	りそな	2,302	13.0%
4	(4)	関西みらい	1,433	8.1%
5	(5)	みずほ	1,234	6.9%
6	(6)	大阪シティ信金	1,205	6.8%
7	(7)	池田泉州	838	4.7%
8	(8)	大阪信金	657	3.7%
9	(9)	北おおさか信金	418	2.4%
10	(10)	尼崎信金	384	2.2%

#### 【小売業】

順位	前回順位	金融機関名	社数	構成比 (%)
1	(1)	三井住友	1,367	17.8%
2	(2)	三菱UFJ	1,258	16.4%
3	(3)	りそな	914	11.9%
4	(4)	関西みらい	834	10.8%
5	(5)	池田泉州	573	7.4%
6	(8)	大阪信金	391	5.1%
7	(7)	大阪シティ信金	375	4.9%
8	(6)	みずほ	373	4.8%
9	(9)	北おおさか信金	273	3.5%
10	(10)	紀陽	262	3.4%

#### 【不動産業】

順位	前回順位	金融機関名	社数	構成比 (%)
1	(1)	三井住友	1,524	17.0%
2	(2)	三菱UFJ	1,432	16.0%
3	(3)	関西みらい	1,070	11.9%
4	(4)	りそな	1,055	11.8%
5	(5)	大阪信金	466	5.2%
6	(7)	池田泉州	353	3.9%
7	(6)	みずほ	351	3.9%
8	(9)	大阪シティ信金	344	3.8%
9	(8)	北おおさか信金	339	3.8%
10	(10)	紀陽	169	1.9%

#### 【運輸・通信業】

順位	前回順位	金融機関名	社数	構成比 (%)
1	(1)	三井住友	770	19.7%
2	(2)	三菱UFJ	598	15.3%
3	(3)	りそな	468	12.0%
4	(4)	関西みらい	351	9.0%
5	(5)	大阪シティ信金	273	7.0%
6	(6)	大阪信金	226	5.8%
7	(7)	池田泉州	215	5.5%
8	(8)	みずほ	172	4.4%
9	(9)	北おおさか信金	140	3.6%
10	(10)	紀陽	121	3.1%

#### 【サービス業】

順位	前回順位	金融機関名	社数	構成比 (%)
1	(1)	三菱UFJ	4,093	17.7%
2	(2)	三井住友	4,070	17.6%
3	(3)	りそな	2,978	12.9%
4	(4)	関西みらい	1,597	6.9%
5	(5)	池田泉州	1,149	5.0%
6	(6)	みずほ	895	3.9%
7	(7)	大阪シティ信金	770	3.3%
8	(8)	大阪信金	734	3.2%
9	(9)	北おおさか信金	472	2.0%
10	(10)	紀陽	448	1.9%

## 4. まとめ

今回の調査では「三井住友銀行」が18,006社で3年連続首位、3年前まで首位だった「三菱UFJ銀行」が2位となった。上位2行は長らくトップを争っているものの、第1回（2009年時点）と比べるとシェアは3ポイント以上減らしている。3位「りそな銀行」は2009年と比べても僅少ながらシェアを伸ばした。

特に2020年に始まった新型コロナ関連融資をきっかけに、地銀や信金が今まで融資を行っていなかった層の企業に対して融資を行うことで社数を伸ばした。その一方で、メインバンクとしての責任は今後、大きくなっていく。来年以降はこれまでも増して、地域を支える地域金融機関としてどのように企業に伴走し、本業支援を行っていくかメインバンクとしての力量も問われることとなる。

2022年はコロナ禍に入り初めて倒産が増加する可能性が高い。長らくのコロナ禍に加えて、近時の円安や物価高は、中小企業の資金繰りを悪化させる要因となっている。今後は、M&Aや事業承継などに加えて、金融債務を圧縮することで事業を再建する私的整理スキームなどメインバンクの果たす役割は大きい。

その一方で金融機関は地域商社や別業態への参入が可能となったことで、地域創生に向けて顧客へのサービスの幅は拡大する。銀行によって特性がより鮮明となっていくなかで、近畿においてもSDGs経営への意識が高い滋賀銀行やDXに強い紀陽銀行など、特長を打ち出している地域金融機関も出てきている。「銀行は自社に合わせて選び、組み合わせる時代」がすでに来ているといえる。今後、選ばれる金融機関になるためには、その特性に磨きをかけ、顧客の問題に寄り添い、解決できる体制を今以上に整える必要があるだろう。

### （\*注1）

大阪府下の地域別は、①大阪市内地区（大阪市内24区）②大阪北地区（豊中市、池田市、吹田市、高槻市、茨木市、箕面市、摂津市、三島郡、豊能郡）③大阪東地区（守口市、枚方市、八尾市、寝屋川市、大東市、柏原市、門真市、東大阪市、四條畷市、交野市）④大阪南地区（堺市内7区、岸和田市、泉大津市、貝塚市、泉佐野市、富田林市、河内長野市、松原市、和泉市、羽曳野市、高石市、藤井寺市、泉南市、大阪狭山市、阪南市、泉北郡、泉南郡、南河内郡）の4ブロックに分別。

#### 【内容に関する問い合わせ先】

株式会社帝国データバンク 大阪支社 担当：白濱  
TEL 06-6441-3100 FAX 06-6445-9532

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。

著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。